

令和 2 年 度
事 業 報 告 書

社会福祉法人 静岡福祉事業協会

令和2年度 社会福祉法人静岡福祉事業協会事業報告

当法人は伝統ある社会福祉法人として、法人の経営理念及び運営基本方針に基づき、適切な福祉施設の運営に努めた。

千代田寮においては施設の環境整備の一環として4月上旬に、外庭の花壇を整備しさつまいもの栽培を行った。花壇の整備から水やりなどを、千代田寮の児童と千代田保育園の園児が共同で行って育成を見守り、自然と触れ合う機会を増やし、植物を大切に育てることにより児童への情操教育を実践した。また、10月には、さつまいもの収穫を行い、こども達が掘った芋で直火による焼き芋を作るなど、食育に取り組んだ。

この他、昨年度整備した外庭の芝生スペースを、千代田保育園の園児たちの遊び場にも利用するなど、はだし保育の更なる効果にも期待される。

また、改正社会福祉法による『地域における公益的な取組を実施する責務』の一環として実施している会場貸出などの活動は、新型コロナウイルスの影響により制限せざるを得ない状況となったが、千代田寮における施設退所者への継続的な相談支援や、トワイライトステイ事業への取り組みは、コロナ禍によって衰退させることなく、積極的に推進した。

I 施設運営事業報告

1 母子生活支援施設『千代田寮』の運営

(1) 千代田寮は、児童福祉法の理念に基づき、配偶者のいない女子又は、これに準じる事情にある女子及びその者が監護すべき児童を、入所によって保護するとともに、児童が心身ともに健やかに育つよう、また、母親が経済的、社会的に自立できるよう総合的な支援を行った。

(2) 支援世帯数の状況

令和2年度は、千代田寮入所定員30世帯に対し、前年度末の在所世帯は28世帯であったが、14世帯が自立等により退所し、新たに14世帯が入所したことにより、3月末現在では28世帯の在所状況となった。

(詳細報告は千代田寮事業報告書記載のとおり)

2 保育所『千代田保育園』の運営

(1) 千代田保育園は、保育ニーズが多様化する中で、保育を必要とする子ども達を受け入れ、保育理念等に基づき保育の充実に努めるとともに、保育園児の健やかな成長のための質の高い保育サービスの提供に努めた。

(2) 保育園児の状況

令和2年度は、千代田保育園利用定員180人に対し、新入園児26人を迎え、年度当初の在園児は167人であったが、年度途中12人が転居等により退園し、新たに24人が入園したことにより、3月末在園児数は179人となった。

(詳細報告は千代田保育園事業報告書記載のとおり)

II 役員会議等事業報告

1 理事会の開催

(1) 令和2年度 第1回理事会

期日 令和2年6月5日(金)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 常務理事の選定
 - ② 令和元年度事業報告
 - ③ 令和元年度本部及び施設拠点区分収支決算
 - ④ 令和2年度本部及び施設拠点区分第1次補正予算
 - ⑤ 令和2年度定時評議員会の開催

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 職務執行状況について

(2) 令和2年度第2回理事会

期日 令和2年11月12日(木)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和2年度本部及び施設拠点区分第2次補正予算(案)
 - ② 評議員候補者の推薦(案)
 - ③ 評議員選任・解任委員会の開催
 - ④ 令和2年度第2回評議員会の開催

報告事項

- ① 令和2年度上半期 事業実施状況報告
- ② 令和2年度上半期 収支予算執行状況報告
- ③ 職務執行状況報告

(3) 令和2年度第3回理事会

期日 令和3年3月11日(木)

場所 (福) 静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和2年度本部、施設拠点区分第3次補正予算(案)
 - ② 令和3年度事業計画(案)
 - ③ 令和3年度本部、施設拠点区分収支予算(案)

- ④ 育児休業及び育児短時間勤務に関する規則の一部改正（案）
- ⑤ 介護休業及び介護短時間勤務に関する規則の一部改正（案）
- ⑥ 給与規程の一部改正（案）
- ⑦ 施設長の任免
- ⑧ 令和2年度第3回評議員会の開催

報告事項

- ① 評議員の選任（評議員選任・解任委員会議事録）

2 評議員会の開催

(1) 令和2年度定時評議員会

期日 令和2年6月22日（月）

場所 （福）静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和元年度本部及び施設拠点区分収支決算
 - ② 令和2年度本部及び施設拠点区分第1次補正予算

報告事項

- ① 社会福祉充実計画について
- ② 令和元年度 事業報告

(2) 令和2年度第2回評議員会

期日 令和2年11月26日（木）

場所 （福）静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和2年度本部、施設拠点区分第2次補正予算（案）

(3) 令和2年度第3回評議員会

期日 令和3年3月23日（火）

場所 （福）静岡福祉事業協会

- 議題
- ① 令和2年度本部、施設拠点区分第3次補正予算（案）
 - ② 令和3年度事業計画（案）
 - ③ 令和3年度本部、施設拠点区分収支予算（案）

3 監査の実施

(1) 当法人の決算監事監査

- ・対象 令和元年度事業執行状況及び経理状況
- ・実施期日 令和2年5月28日（木）
- ・監査結果 令和2年5月28日（木）

① 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款

に違反する重大な事実は認められません。

② 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(2) 当法人の定期監事監査（中間監査）

- ・ 対象 令和2年度上半期、事業執行状況及び経理状況
- ・ 実施期日 令和2年10月29日（木）
- ・ 監査結果 令和2年10月29日（木）
令和2年度上半期分（R2.04.01～R2.09.30）の社会福祉法人静岡福祉事業協会の事業、貸借対照表及び収支計算書については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、適正であると認めます。

(3) 静岡市保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課による令和2年度の「千代田寮」の指導監査

- ・ 対象 千代田寮
- ・ 実施期日 令和2年10月2日（金）
- ・ 監査結果 令和2年11月12日（木）
文書指摘 なし

(4) 静岡市子ども未来局幼保支援課による令和2年度の「千代田保育園」の指導監査

- ・ 対象 千代田保育園
- ・ 実施期日 令和2年8月19日（水）
- ・ 監査結果 令和2年9月3日（木）
文書指摘事項 なし

4 評議員選任・解任委員会の開催

(1) 令和2年11月18日（水）

場所 （福）静岡福祉事業協会
議事 評議員の選任

5 法人内部の運営会議

下記の運営会議を実施し、法人組織の強化、健全な施設経営の推進に努めた。（経営環境と経営状況の把握・分析に基づき経営課題を明確にし、具体的な取組の推進。）

(1) 千代田寮運営会議：毎月第2水曜日（月例）

- ① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・ 月間事業実施状況
- ・ 母子生活支援に係る懸案事項等の調整
- ・ 入所者支援充実、常に選ばれる施設になるための具体的方策
- ・ その他

(2) 千代田保育園運営会議：毎月第3水曜日（月例）

① 実施回数 12回

② 会議事項

- ・ 月間事業実施状況
- ・ 保育に係る懸案事項等の調整
- ・ 質の高い保育の提供、保育園児を確保するための具体的方策
- ・ その他

(3) 法人本部運営会議：毎月第1水曜日（月例）

① 実施回数 12回

② 会議事項

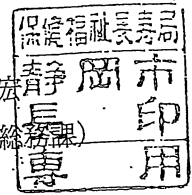
- ・ 月間事業費執行状況（月次試算表の状況）及び月次経営成績
- ・ 施設利用者数確保のための具体的方策
- ・ 法人経営、組織等に係る共通事項・懸案事項等の調整
- ・ その他

02 静保健福総第 3121 号

令和 2 年 11 月 12 日

社会福祉法人 静岡福祉事業協会
理事長 萩原 信幸 様

静岡市長 田辺 信宏
(保健福祉長寿局健康福祉部福祉総務課)



令和 2 年度社会福祉施設指導監査の実施結果について (通知)

令和 2 年 10 月 2 日に実施した「千代田寮」の指導監査結果について、下記のとおり通知
します。

記

- 1 文書指摘
なし

担 当 保健福祉長寿局健康福祉部
福祉総務課監査指導係

電 話 054 - 221 - 1367

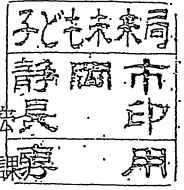
F A X 054 - 221 - 1091



02 静子幼保第 1576 号
令和 2 年 9 月 3 日

社会福祉法人 静岡福祉事業協会 理事長 様

子ども未来局
静岡市長 田辺 信宏
(子ども未来局幼保支援課)



令和 2 年度児童福祉施設等指導監査の実施結果について (通知)

令和 2 年 8 月 19 日に実施した、千代田保育園の指導監査結果について、下記のとおり通知します。なお、現場で指示した事項については、速やかに改善するようお願いします。

記

文書指摘事項

なし

担当 子ども未来局 幼保支援課
総務・事業者指導係

TEL 054-354-2622

FAX 054-352-7733



令和2年度 千代田寮事業報告書

困難な事情を抱えた母子が安心・安全な環境で社会的、経済的に自立できることを目指して、母親に対しては、日常生活、就労等のスキルが向上するよう、また、子どもに対しては、生活・学習習慣の改善、社会性の向上等が図られるよう支援を行った。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全期間に渡り感染防止を念頭において施設運営を行った。令和2年度に入所した世帯は、その約85%が夫などからの暴力が理由であり、生活、就労面での支援に加え、健康面、心理面についても丁寧な支援を心がけた。とりわけ、精神疾患などにより生活スキルの課題を抱えている母親に対しては、関係機関と連携してより多面的で個別的な支援を行った。

(単位:世帯)

1 入退所世帯数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日世帯数	29	29	28	29	27	29	26	28	28	28	29	27	-
初日入所	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
入所(中途)	1	0	1	0	2	0	2	0	1	1	0	2	10
退所	1	2	1	2	0	3	1	0	1	0	2	1	14
月末世帯数	29	27	28	27	29	26	27	28	28	29	27	28	-

※入退所理由

入所(14世帯)	夫などからの暴力 12、不適切な家庭環境 2
退所(14世帯)	自立 5、再婚 2、復縁 3、契約期間満了 1、子どもの施設入所 2、夫等からの追跡の危険性 1

2 入所世帯の状況 (令和3年3月1日現在)

(1) 入所者数

母親	児童	計
27人	45人	72人

(2) 入所理由

夫などの暴力	不適切な家庭環境	母親の心身の不安定	住宅事情	計
21世帯	4世帯	1世帯	1世帯	27世帯

(3) 出身地

県内	県外			計
	関東	甲信越	東海	
9世帯	13世帯	2世帯	3世帯	27世帯

(4) 児童の状況

乳幼児	小学生	中学生	高校生	計
25人	14人	5人	1人	45人

(5) 入所期間

1年未満	1年	2年	3年	4年	5年	計
10世帯	5世帯	6世帯	1世帯	1世帯	4世帯	27世帯

3 母親に対する支援

(1) 日常生活支援

- ・入所には支援担当者が立ち合い、その後、母親に寄り添って現在の気持ちや入所に至るまでの経過などを聞き取るとともに、転校や生活保護申請等の手続に同行する中で母親との信頼関係が構築できるよう努めた。
- ・母子に住居を提供し、家事、子育て、健康などに関する相談に随時応じるとともに、必要に応じて買い物や病院受診等に付き添うなどして母子が安定した日常生活を送ることができるよう支援した。
- ・母親がより深刻な生活上の困難を抱えた時には個別面接の場を設定し、母親の訴えを丁寧に聞き取って困難への対応策をともに考えるなどの対応を行った。また、必要に応じてフォロー面接を定期的実施した。

【個別対応の主な主訴内容】

- ・心身の悩み ・人間関係 ・子育ての不安 ・将来への不安
- ・自分の生育歴への怒りやその整理 ・生活全般の悩み
- ・離婚調停や裁判中はそのことへの不安や恐怖

○支援実績

(単位:回)

区分		上半期 (R2.4~9)	下半期 (R2.10~R3.3)	計
個別面接実施回数		1,212	1,190	2,402
ケースネット会議出席		9	3	12
関係機関への情報提供		1,171	1,052	2,223
内 訳	市役所・区役所	567	608	1,175
	警察署	23	16	39
	弁護士	86	112	198
	学校	155	145	300
	児童相談所	170	94	264
	病院	83	16	99
同 行 支 援	役所・買物・家事援助	95	114	209
	家庭裁判所・弁護士	11	5	16
	主治医訪問	13	27	40

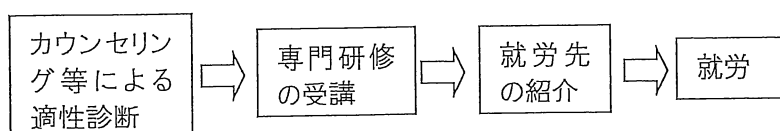
(2) 就労支援について

- ・世帯の自立には安定した就労収入の確保が不可欠であるため、母親の希望や適性に沿った就労先が確保できるよう支援した。
- ・生活保護家庭の場合は、葵区福祉事務所生活支援課の就労支援員と連携して採用面

接への同席、履歴書作成等の支援を行った。また、静岡市母子寡婦福祉連合会とは就労セミナーの情報提供等において連携した。

- ・障害等を抱える母親に対しては、医療機関、相談支援事業所と連携して作業所での就労を進め、母親の状況に応じて就労内容、時間を考慮するなどきめ細かく対応した。
- ・新たに人材紹介・養成を専門とする企業（株式会社東海道シグマ）と連携した就労支援の取組を開始し、入居者がカウンセリング等による適性診断や専門研修などを通じて就労先を確保できるよう支援した。令和2年度においては、4人の母親に対して支援を行い、うち1人が就労に結びつき、パートを経て正社員として採用された。

【就労支援の流れ】



(3) 保育支援

乳幼児を抱える母親が就職活動を行う場合や、母親の体調不良又は精神的な不安定さにより子どもの看護が困難な場合などに、保育室での一時保育や保育園等への送迎を行った。

○令和2年度 保育実績

(単位:件、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	16	20	26	50	45	43	34	51	46	55	85	80	551
人数	23	34	38	65	62	44	40	63	60	59	110	112	710

(4) 障害等のある入所者の支援

知的、精神的な障害のある入居者のために各種の制度、手当等の利用をアドバイスし、入所者が自立のためにより有利な状況を確認できるよう支援した。また、自立に向け通勤・通学や通院に公用車でなく公共交通機関を利用する同行支援を関係機関と連携して実施した。

(5) その他の支援

- ・離婚協議における弁護士との連絡調整及び裁判等への同行支援
- ・住民票移動がない状態での各種手続きへの同行支援
- ・退寮時の地域支援ネットワークづくり
- ・ケースネット会議への参加による関係機関との連携

4 児童に対する支援

(1) 日常生活支援

- ・遊びや学習などの機会を通じて子どもたちの心の安定を図るとともに、挨拶をする、礼儀やルールを守る、他児と仲良く過ごすなど円滑な社会生活を送るためのスキルが身につくよう子どもたちを指導・支援した。
- ・日々の生活場面での現れを観察するとともに、遊びや学習での会話をきっかけに気に

なる様子が伺えれば、面接を投げかけて行ったほか、子どもからの希望があれば随時面接を行った。

【主な主訴内容】

- ・学校生活の対人関係や学習、進路のこと
- ・千代田寮での生活のこと
- ・母や父との関係
- ・友達とのこと

(2) 学習支援

- ・入所前の虐待やDVなどにより学習環境が整っていなかった児童が少なくなく、学習習慣を身につけさせて学力の維持・向上を図るため、学習場所を確保し、担当職員を配置して支援を行った。
- ・中学生、高校生を対象に学力の向上や職員、他児との交流を深めるための学習会を延べ24回実施した。

○令和2年度 学習指導実施回数児童参加人数 (単位:日、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日	21	18	22	21	19	19	22	18	20	19	17	23	239
参加人数	232	224	175	164	168	156	172	133	194	173	170	201	2,162

5 心理支援

- ・夫などからの暴言・暴力により心理的ダメージを受けて精神的不安定さを抱える母親に対してカウンセリングを行い、母親の安心感、安全感の再形成及び自信回復等を図った。
- ・父親からの被虐待経験を引きずっている、また、母親とうまく関係が持てないなどにより心理的な不安定さを有する子どもに対してカウンセリング、遊戯療法等を行い、心の安定を図った。

○カウンセリング実績

区分	対象者数	回数(延べ)
母	13人	100回
児童	14人	71回

6 行事の開催

母親や子どもが施設の中での生活を楽しみ、精神的な安定や自立への意欲を高めてもらうために各種行事を実施した。行事は母親や子どもが、職員や他の利用者との親睦を深めたり、日頃のストレスを解消したりする場ともなっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、いくつかの定例行事を中止したり、内容変更したりした。

【2年度年間行事】

- 4月 母の日プレゼント制作
- 7月 七夕会
- 8月 児童絵画展入選児童食事会
エスパルス招待試合観戦
夏休みバス遠足

- 9月 エスパルスパルちゃん福祉施設訪問
- 10月 サツマイモ掘り
- 11月 焼き芋会
- 12月 クリスマス会
- 1月 新年会
- 2月 節分会
- 3月 ひなまつり会
中高生合格・就職祝会

7 職員研修

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、例年関東ブロック圏域等で実施されている研修が中止になるなど、スキルアップのための場が十分に確保することができなかつた。
- ・施設内研修では、入所者の支援状況の把握も兼ねて、全入所者の現況と課題、今後の対応を毎月開催するケース会議で報告することとした。職員自身が担当する世帯はもとより担当外の世帯についても理解を深め、様々な事例に関し意見を交換する場となり支援技術向上の良い機会となった。
- ・入所者の課題や支援の効果を具体的に把握するため、「日常生活への適応評価」、「退寮のためのチェックリスト」の2つのチェックリストを作成した。「日常生活への適応評価」については、3か月ごとに評価してケース会議で報告し、支援の効果を確認することとしている。
 - 外部研修（オンライン研修）
感染症講座
 - 所内研修
ケース会議、テーマ別研修、少年指導員会議

8 実習学生の受入れ

将来、社会福祉に携わる人材の養成・確保を支援するため、大学等からの依頼に基づいて実習学生を受け入れた。
令和2年度は、県内大学・専門学校5校から14人を受け入れた。

9 緊急一時保護の受入れ

様々な事情により緊急的に保護が必要となった母子を県、市町からの依頼に基づいて専用居室において短期間受け入れた。

○保護実績

区分	世帯数	人数	延べ日数
静岡県	1世帯	1人	31日
静岡市	5世帯	13人	73日

10 危機管理対策

- ・新型コロナウイルス感染防止対策として、職員、来訪者のマスク着用、手指消毒を徹底したほか、所内会議における換気の確保、入居者への三密環境への出入り回避の要請を行った。
- ・新型コロナウイルス感染者は出なかったものの、濃厚接触者とされたものが1名いた。PCR検査の結果、陰性であったが、保健所の指示に基づき、施設において当該家庭との連絡方法、健康確認の手順など具体的な対応ルールを定めて、2週間の母子での居室隔離を実施した。
- ・災害等に備え入所者の避難訓練、消火訓練を定期的実施したほか、非常時に一斉通報システムを通じて情報が入所者に速やかに伝達されるよう各居室にスピーカーを整備した。
- ・宿直制により職員が24時間常駐し、敷地内5か所に防犯カメラを設置しているほか、防犯フィルム貼付、正門の常時閉切りを行っている。また、最寄りの交番には、緊急時の対応等について協力を依頼している。

11 退所者へのアフターケア

施設退所者が、退所後も安定した生活を送ることができるよう、電話や来訪による相談に応じたほか、心理カウンセリングや学童保育（トワイライトステイ事業）等を行った。

○令和2年度 アフターケア実績 (単位:人(上段 実人数、下段 延人数))

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談	電話	6	5	3	8	11	4	6	1	5	7	10	8	74
		9	9	10	18	13	2	10	2	5	22	13	10	123
	来訪	1	1	1	2	6	1	3	5	6	6	7	1	40
		1	1	1	4	11	1	6	6	6	30	15	19	4
学童保育 (トワイライト)	2	2	2	4	13	2	3	0	3	3	3	0	3	64
	16	12	4	23	36	6	7	0	10	6	0	15	15	257
心理カウンセリング	3	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16
	3	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	16
家庭訪問	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	0	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
同行支援	0	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	2	6
	0	0	0	1	1	0	2	2	2	0	0	0	2	8

12 地域との交流

- ・施設の一部を町内会の防災訓練や健康づくりの会場として提供した。
- ・清水エスパルスからは例年、支援を受けており、令和2年度はマスコットキャラクター「パルちゃん」が来訪し、入所者が励ましを受けたほか、エスパルス福祉基金から寄付金、自動車の寄贈を受けた。

- ・市内外の事業所、団体から、ランドセル、化粧品、食料品などの寄贈を受けた。(ふわり基金、ロクシタンジャパン(株)、(株)カーブスジャパン静岡曲金店ほか)

13 広報・PR活動

- ・施設の認知度向上を図り、利用に繋げてもらうため、PR用の施設概要等の資料を作成し、県内、関東、部地方及び近畿地方の福祉事務所に送付した。

【送付先】

県内…15市町の女性相談担当課及び2政令市各区の福祉事務所 26か所

県外…千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県、富山県、

石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、奈良県の市町村の女性相談担当部署

489か所

- ・10年以上当施設の利用のない県中遠地域の掛川市、袋井市、磐田市を訪問して、要保護児童対策地域協議会の会議の場において施設紹介を行った。その後、袋井市からは入所の打診があり、施設見学を行ったものの入所には至らなかった。

14 環境整備

- ・快適で安全な施設環境を確保するため、芝生園地及び樹木の手入れを静岡市シルバー人材センターに委託しているほか、職員が芝生園地の草取り、側溝の清掃を行った。
- ・しばらく手入れされていなかった花壇、畑を子どもたちの参加も得て耕し、花壇にはひまわり、コスモス、畑にはサツマイモを植えた。秋には、サツマイモを収穫し母と子が焼き芋を楽しんだ。
- ・表面の老朽化が目立っていたサークルベンチと自立支援棟「ひまわり」のテラスの木柱、テーブル、ベンチを職員のサンダー掛けとニス塗装によりリフレッシュした。
- ・サークルベンチ内側のシンボルツリーが枯れてしまったため、ケヤキに植え替えた。

令和2年度 千代田保育園事業報告

子どもの生活環境や子育ての環境が大きく変化し、子育て支援に対する保育園の役割はますます深化・拡大している中で、次の保育理念、保育方針及び重点目標に基づき、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら、充実した保育の提供に取り組んだ。年度末には第73回の卒園式を挙行し、34名の逞しく成長した子どもたちを8校の小学校へ送り出すことができた。

○年齢別月別在園児童数 (単位:人)

月 年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	9	11	10	14	14	14	17	19	21	21	21	21	192
1歳	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
2歳	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396
3歳	30	30	30	29	31	31	31	31	31	31	32	31	368
4歳	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420
5歳	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	34	419
計	167	169	168	171	173	173	176	178	180	180	181	179	2,095

<保育理念>

子ども一人ひとりの人格を尊重し、あそびを通して、知識や思考の土台となる経験を乳幼児期にたくさんさせ、子どもらしい生き生きとした生活が豊かに営まれるように保障していく。

<保育方針>

子どもたちをとりまく環境をより豊かにし、自ら考え、自ら行動し、健康で思いやりの心をもった子どもに育てる。

<重点目標>

- 丈夫な体
- 豊かな心

1 保育の実施状況

子どもたちが積極的に戸外に出て、水、土、泥、砂に触れ、五感をフルに使ってエネルギーを高め、想像力をふくらませ、乳幼児期に十分な「あそび」を体験できるよう心がけた。併せて、他人と協調することや、子ども自身が自ら考え、自ら行動するといったことも重視し、子どもの頭と心と体がバランスよく育つよう配慮した。

(1) 裸足保育の実践

当園では、丈夫な体作りの一環として裸足保育に取り組んでおり、職員間でその重要性について、話し合い、学ぶ機会を設け、そこでまとめたものを「千代田保育園のしおり」に掲載し、保護者に配布した。

また、子どもたちの成長を確認する手立てとして、毎年全員の足型を取ることとしており、また、年齢ごとの体作りについても、何年か先の成長を見通しながら今の時期にできる体作りを意識しながら保育を行った。

(2) 自然と触れ合う体験

天気の良い日には例年、積極的に近くの公園、空き地にも出かけ、四季折々の自然を感じたり、触れたりしながら楽しんでいるが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、園外の活動を制限せざるを得ず、限られた状況の中、できる限りの工夫をしながらの活動となった。また、秋の谷津山登りについては、戸外での活動が十分にできなかったことにより、子どもたちの体力的なことが心配されたため、本来の距離の半分程度に短縮して実施した。

(3) 創造力を膨らませるあそびの推進

例年、夏は毎日、プール遊びを行い、水に浮いたり、バタ足で水を蹴る感覚を楽しんだりするが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、人数制限をしたり、時間差で入るなどの配慮をしての実施となった。冬でも暖かい日には、蛇口をひねり、水を出し、容器の中に水を入れたり、こぼしたりして水の感触を楽しんだ。

2,3歳以上の子どもたちは、鬼ごっこ、かくれんぼなどルールのあるあそびを子どもたちで工夫して楽しみ、大きい子どもたちは、砂場で山を作り、共同で穴を掘ったり、川作りをしたりと創造力を膨らませてあそびを発展させていった。「ピカピカだんご」作りなども引き続き行った。

(4) 絵本、紙芝居等に慣れ親しむ機会の確保

家庭では、子どもたちの遊びはテレビ、ビデオ、ゲーム等が中心となっており、その影響が大きく心配されるため、園では絵本や紙芝居、お話等に慣れ親しむことができる機会を多くするとともに、園の絵本、童話等の貸出しも行った。

図書コーナーを乳児クラスも利用できるように整え、令和2年度も親子で絵本を毎日のように借りていく姿が見られた。また、保育の中で、毎日、クラス担任が読み聞かせを行い、色々なお話に触れることができた。

(5) クッキング保育の推進

「食育」の一環として、クッキング保育(カレーづくり、へそもちづくり、ホットケーキづくり等)を取り入れている。初夏には、野菜づくりに取り組み、暑さのためか収穫は例年に比べ少なかったが、ミニトマト、ピーマン、きゅうり等を育てて収穫する喜びや、切ったり、炒めたりといった調理を通じて子どもたちの食に関する興味を喚起することができた。調理体験では、調理する人の大変さも知り、子どもたちから給食職員に「ありがとう」「おいしかった」と声をかけることが増えた。

また、年に何回か、給食職員が年長クラスに赴いて、食に関する絵本の読み聞かせをしたり、実際にその場で子どもたちと一緒にジャムやバターを作って味見をするなど、子どもたちにとって、とても興味深いものとなった。

例年、稲を粃からバケツで栽培し、米の出来る過程を観察したり、粃殻を剥いて米粒を取り出すことを体験しているが、令和2年度はこの体験に加え、千代田寮の畑を借りてさつま芋の栽培を行った。植えるところから始まり、草取り、水やり、収穫を経て焼き芋にして食べるという楽しい体験をすることができた。こういった様々な体験を通じて食への関心をより広く、深く高めることができた。

2 保護者支援

子ども一人ひとりの発達や保育方法、家庭状況などについて、保育士が意見や情報を交わす場を設け、園全体で情報共有等を図ることにより、児童と保護者に対する理解を深めることができ、日々の送り迎え時の保護者との会話に生かすことができた。

また、クラスだよりなどを通じて日々の保育の意図や、子育てのワンポイントアドバイスを伝えたり、園における子どもたちの姿の写真を掲示したりすることにより、保護者がより安心して子どもを預けられるよう、また、家庭でより暖かな気持ちで子どもと接することができるよう努めた。

特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参観等も見送ることが多々あり、保護者の参加が限られていたため、園での様子ができる限り伝わるよう、また共有できるよう可視化に力を入れた。

3 地域との交流

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、園児の祖父母や地域のお年寄りの保育園への招待や老人福祉施設への訪問を見合わせた。また、保育所が地域の中で親近感と信頼感をもたれる施設となることを目的とした“おしゃべりサロン”については、消毒、検温等を行いながらできる限り実施した。実施した内容は、「歯科衛生士の話」「きのいい羊たち」「バルーンアート」「園庭解放」などである。

4 年間行事

4月1日 入園式。新入園児30名

2日 浅間山花見（年長児）

18日 新入園児・在園児対面式（101名）

4月20日～5月31日 登園自粛要請期間。保護者総会、おしゃべりサロン（ベビーマッサージ）中止

27、29日 嘱託医による健康診断（169名）

- 6月10日 乳児保育参観中止
11日 嘱託医による歯科検診
12日 おしゃべりサロン（歯科衛生士の話 参加者3組）
18日 プール開き
25日 消防署職員による花火教室（幼児クラス）
- 7月2日 おしゃべりサロン（園庭解放 参加者5組）
10日 千代田まつり（幼児クラスのみ参加。見学は年長保護者のみ）
22日 「お楽しみ会」（年長児35名）
28日～8月6日 プール参観（たんぼぼ、ちゅうりっぷは中止）
- 9月4日 プール納め
9日 おしゃべりサロン（「きのいい羊たち」 参加者7組）
- 10月1日 十五夜のへそ餅づくり（年長児）
12日 運動会（雨天延期。競技内容、時間等を縮小し、幼児のみ参加。保護者見学は、クラスごと交代制で実施）
14日 おしゃべりサロン（保健師の話 参加者3組）
22日 谷津山遠足
- 11月2日 防災訓練
11日 おしゃべりサロン（園庭開放 参加者2組）
13日 七五三の祝会（れんげ～こすもす）
19日 みかん狩り（幼児クラス）
- 12月12日 生活発表会（幼児クラスのみ。保護者見学は各クラス入替制）
23日 「クリスマスのお楽しみ会」
- 1月12日 凧あげ（幼児クラス）
20日 お別れ遠足（海洋博物館 年長児）中止。園内でお楽しみレクリエーションとお家の人の手作り弁当。
27日 シルエット劇場（中止）
28日 おしゃべりサロン（「絵本を見よう」）中止
- 2月2日 豆まき 鬼や福の神が現れて豆まきを行った。
9日 お店やさんごっこ（年中、年長クラス）
- 3月3日 ひなまつりの会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため幼児の集いのみ）
12日 第73回卒園式（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、式を短縮（年長児34名）

※月間行事

- ・身長体重測定
- ・誕生会・童話会
- ・避難訓練
- ・職員会議
- ・絵本の読み聞かせ（年長、年中で隔月）中止

5 実習生の受け入れ

常葉大学短期大学部（1名）

※職場体験については中止

6 職員研修の実施

県保育所連合会、県保育士会、市保育士会、ときわ保育士会、日保協等による研修会にできる限り多くの保育士を参加させ、資質の向上に努めた。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くがリモートによる研修であり、参加に当たっては、新型コロナウイルス感染予防対策を確認し、安全に参加できるものに限定した。

ときわ保育士会	実技研修：自然と科学、絵本等 理事研修：年4回 講演会：中止
静岡市保育士会	養護講座 実技研修：わらべうた
静岡県保育士会	保育士研修会：リーダーセミナー キャリアアップ研修
静岡県保育所連合会	保育研究大会
静岡県中部支部	保育士研修会：るくる
静岡市保育協会	実技研修：歌遊び 調理実習
全国保育士会	関東ブロック保育研究大会
日本保育協会	事故予防研修会
静岡市保健所	食中毒予防
近隣園・小	合同研修会
こども病院	食物アレルギー
こども園課	栄養士研修
きらり	プチ研修：気になる子

7 他機関との会議等への参加

下記会議等に園長、主任が出席し、協議及び情報収集を行った。

- ・ときわ保育士会、静岡市保育士会、静岡県保育士会等の総会

- ・ 県保育所連合会、県中部支部等の総会
- ・ 私立園長会
- ・ ときわ保育士会役員会、理事会
- ・ 市保育協会
- ・ 城東子育て支援センター
- ・ 視察研修

8 一時預かり事業

在園児以外の近隣住民の乳幼児を預かることによって、地域で安心して子育てができる環境整備に寄与した。

令和2年度は、67人の乳幼児の預かりを行った。

(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	0	5	20	39	0	1	1	1	0	0	0	0	67

9 保護者アンケートの実施

園の運営方針、施設環境、保育等に関する保護者アンケートを実施し、回収率は74.8%であった。「外遊びや散歩は充実しているか。」「子どもは園生活を楽しんでいるか。」「給食やおやつのお供立は工夫されているか。」などのほとんどの項目で95%以上の保護者が良いと評価した一方で、職員間で保育姿勢や対応にばらつきがあると感じている保護者がいることもわかった。今後もこのアンケート調査を継続して実施し、これからの保育園の運営に役立てていきたい。

10 危機管理対策

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当園する児童、送迎する保護者に対しては検温、手指消毒を徹底したほか、園内での三密状態をできる限り回避するため、活動の小グループ化、行事の縮小・中止などの対応を行った。

地震や火災時に子どもたちが安全かつ円滑に避難できるよう、毎月、避難訓練を実施した。また、外部からの不測の侵入者対策として、園への出入口を駐車場側の1か所に限定している。

熱中症対策としては、昨夏も暑さが厳しかったため、各クラスのエアコンをフル活用するとともに、幼児クラスには水筒持参をお願いし、乳児には経口補水液や麦茶を与えてこまめな水分補給を行うなど子どもたちの健康管理に留意した。